

労山をつなぐ
ネットワーク
山の仲間を結ぶ
会・クラブ紹介

36



紐は下に垂らせよ Tシャツ集合写真

縛りのない自由闊達なクラブ 自由なところ、好きなように山に行けること

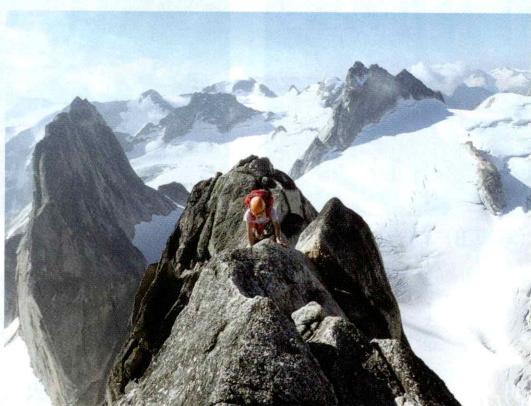
M&Cってどんな会

M&C 神奈川県勤労者山岳連盟

M&CのMはマウンテンアリシング、Cはクライミング。ハイキングだけ、スポーツクライミングだけという会員は存在しない。皆、山というフィールドで幅広く活動しており、積雪期のアルパインクライミング、山スキー、沢登り、クライミング（スピード・トラッド）、ボルダリング、トレイルランニング、縦走など内容は多岐にわたっている。ヒマラヤや北米など海外でも活動している人がいるが、拠点は横浜だ。

基本的に自由な会で、教育制度などの縛りはない。個々で積極的に山行を行っており、休日のほとんどを岩場や山で過ごしている。年齢層はやや高めで平均は50歳だが、還暦を過ぎた会員も現役バリバリだ。また、他の会との掛け持ちや、会員以外と

の活動に制限は全くない。先輩後輩という概念も良い意味で存在せず、風通しの良い環境である。



最小柄の松田はジリスのいる北米が好き
カナダ、Bugabooにて

会としての活動は、二ヶ月に1回の例会（現在、感染症防止の観点から、オンライン会議）のみだ。

模擬搜索
ココヘリを活用した

登山時報 2022年6月号 36

特に決まりはないが、年に1～2回会山行が企画されることもある。2021年度は、秋に「搜索訓練」を実施した。過去に実施したレスキュー訓練とは異なり、会員が山で行方不明になつた場合を想定して会としてどうすべきかを皆で考え、具体的な例を元に搜索隊を組んで行動するという試みであった。事前打ち合せを行つたうえで、具体的には搜索隊を組んで連絡を取り合ひ、ココヘリ親機を使いながら（模擬）行方不明者を探すという内容だ。技術的訓練というより「遭難」に関して個々の想いを共有する色合いが濃かつた。また、

ココヘリ導入のための補助金を会から支給することが決定した。当会は、単独行も多いため、ココヘリ携行を奨励している。

て顔を合わせる機会が少ないと、誰が何をどんな気持ちで行つているか、情報共有するのに役立つている。クライミングなら、どのルートを何本登ったか、オンラインサイトしたかなど詳細に書けば各人の力量がよくわかる。提出した計画書も皆が見れる。

21年度は他にホームページの刷新、山行計画書提出・下山連絡のオンラインフォーム化、オリジナルTシャツの作成などの活動を行つた。山行計画フォームは、送信するとメーリングリスト（ML）に流れるようになっており、会員のコメント欄を見るのが楽しみだ。会員同士が集まつ

て、M&Cの自主性を重んじる精神を良く表しているので、Tシャツにした。人に連れて行ってもらうレジヤー的な山行ではなく、自分の力で登れ、という想いが込められている。

創設から11年、会員の入れ替わりは多数あった。会のどこが気に入つていて、現在の会員に尋ねてみたら、「自由なところ、自分の好きなように山に行けること」という意見が多かった。会では、人気の定番ルートよりも、個性的な山行が評価される傾向にある。ガイドブック任せではなく、誰かに指図されるのではなく、地図や山を見ながら自分でやりたいことを見つけて行動する、そういう人がM&Cに集まるのだと思う。

会創設以来、初めて作成したTシャツには会の名称は入っていない。「紐は下に垂らせよ」の言葉を背面にプリントした。これは、M&C創始者の1人が会を去る会員に向けて贈った言葉で、M&Cの自主性を重んじる精神を良く表しているので、T



搜索訓練での打ち合わせの様子



搜索訓練終了して陽気に下山中



副代表の福丸はフリーソロ志向 紅葉の涸沢ボルダー



最高齢の久保は退職後、念願のヒマラヤ通い

（三瓶健／M&C会長）